



つづき

試験結果	試験年月日	***年**月**日		
	試験体の大きさ (mm)	**×**		
	加熱面	屋外側		
	加熱を実施した時間	**分**秒間		
	加熱温度測定曲線	別図 12		
	荷重及び軸方向収縮変位測定曲線	別図 13		
	裏面温度測定曲線	別図 14		
	最大軸方向収縮量	**mm <sup>1)</sup> [規定値 32.0mm]		
	最大軸方向収縮速度	**mm/分 <sup>1)</sup> [規定値 9.6mm/分]		
	裏面温度	初期 (平均)	**℃	
		最高	**℃ (**分) <sup>1)</sup> [規定値 208℃]	
		平均	**℃ (**分) <sup>1)</sup> [規定値 168℃]	
	非加熱側へ 10 秒を超えて 継続する火炎の噴出の有無	***		
	非加熱面で 10 秒を超えて 継続する発炎の有無	***		
	火炎が通る亀裂等 の損傷の有無	***		
	判定項目を満たすこと が確認された時間	**分間		
[備考] ・経過詳細：試験開始後**分**秒に、荷重支持能力が失われたため、試験を終了した。 ・面外方向たわみ測定曲線（参考）を別図 13 に示す。 ・内部温度測定曲線（参考）を別図 15 に示す。 ・試験体の状況を写真 1～写真 5 に示す。				
注 <sup>1)</sup> 荷重支持能力が失われる直前までの結果を示す。				
試験期間	***年**月**日			
担当者	防耐火グループ 統括リーダー	***** ***** ***** (主担当)		
試験場所	中央試験所（埼玉県草加市稲荷 5 丁目 21 番 20 号）			

別表 1 試験体の試験荷重

1) たて枠の材質	
・種類	: 枠組壁工法構造用製材
・区分・等級	: * * * * *
・樹種	: * * * * *
・圧縮基準強度 $F_c$	: ** (N/mm <sup>2</sup> )
2) たて枠の断面寸法及び材長	
・断面寸法	: ** × ** (mm)
・断面積	: * * * * (mm <sup>2</sup> )
・断面二次半径 $i$	: ** (mm)
・座屈長さ $\ell_k$	: ** (mm)
・有効細長比 $\lambda$	: * * * *
・荷重を支持するたて枠の本数	: 5 本
3) たて枠の長期許容応力度は、平成 13 年国土交通省告示第 1024 号の第一に定められる木材の圧縮材の座屈の許容応力度より、以下のように求められる。	
・ $\lambda \leq 30$ の場合	$\frac{1.1}{3} F_c$
・ $30 < \lambda \leq 100$ の場合	$\frac{1.1}{3} (1.3 - 0.01\lambda) F_c$
・ $\lambda > 100$ の場合	$\frac{1.1}{3} \cdot \frac{3000}{\lambda^2} F_c$
$\lambda > 100$ であるから、	
長期許容応力度 = $\frac{1.1}{3} \times \frac{3000}{\lambda^2} F_c$	
= * * × * * × * *	
= * * (N/mm <sup>2</sup> )	
4) 試験荷重 P = 長期許容応力度 × 荷重を支持するたて枠の総断面積	
= * * × ( * * × * * )	
= * * (N)	
= * * (kN)	

～～以下、省略～～

(試験体図 (依頼者提出資料)、試験方法図、測定結果のグラフ、試験後の状況写真 等が続きます。)